

口の中のできもの

<アフタ性口内炎>

一般的に口内炎といわれるもので、直径数ミリ大の円形の浅い潰瘍（かいよう）であり、周囲は赤くなっています。食物や歯ブラシなどがちょっと触れただけでもズキッとした強い痛みがあります。また刺激性の食物や熱いもの、塩辛いものがしみたりします。何もしなくても1~2週間で治ります。原因は様々あり、機械的刺激、極端な疲労、ストレスあるいは片寄った栄養摂取などいろいろな要素が絡み合って発症するといわれています。治療としては自然消失を待つか、症状が強い場合には副腎皮質ステロイド薬入り軟膏を使用したり、レーザー照射をすることがあります。



<ヘルペス性口内炎>

通常的口内炎に似ていますが、ヘルペスウイルスによる水泡、びらん、潰瘍です。体調を崩したときなどに出やすいもので、口唇、頬粘膜、口蓋（上顎）、歯肉、舌によくできます。10~14日程度で自然治癒しますが、初期に診断できれば抗ウイルス薬の内服や塗布により早く治癒に向かいます。



<口腔カンジダ症>

口腔内に白い膜が付着したりすることがあり、多くの場合はガーゼで拭うことができます。また、膜ができない代わりに全体が赤くなり痛みが出たり、カンジダ菌が口内炎が付着すると治癒が遅くなったりすることもあります。



<粘液嚢胞>

直径数mm～1cm程度の柔らかい腫瘤で、下口唇にできやすいです。原因は、唇などにある小唾液腺という唾を作る器官の出口が何らかの原因で閉塞してしまうことにより唾が貯留してできます。自壊と再発を繰り返し消失しないものについては外科的に切除することをお勧めします。



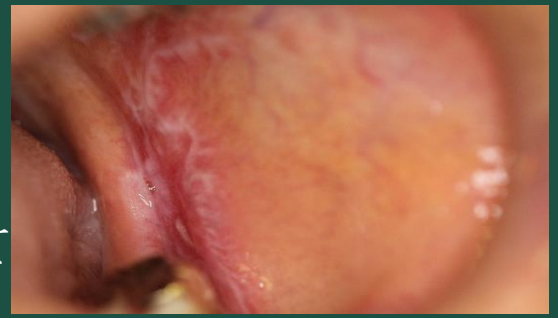
<良性腫瘍>

さまざまな種類がありますが、口腔内に見られやすいのはエプーリスや線維腫、乳頭腫、血管腫などです。基本的にはそれ自体は悪さをすることは多くありませんが、長期の放置で悪性へ変化したりすることもありますので、早期の受診と処置が望ましいです。



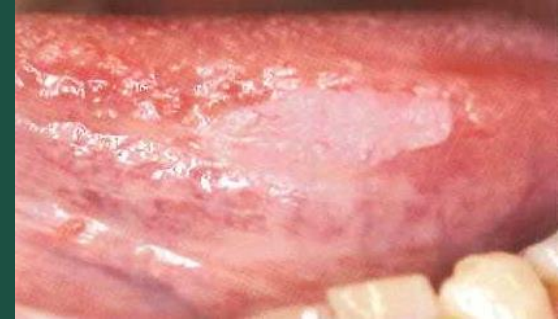
<扁平苔癬>

白斑の模様がレース状や網目状に見えることが特徴的で、頬粘膜や舌によくできます。自発痛や刺激痛を伴うことがあります。原因は不明ですが金属アレルギーや喫煙などに関与があるといわれています。前癌状態とも位置付けられていますので、早期の診断と治療が必要です。



<白板症>

粘膜が肥厚して白色に見える病態を一般的に言います。症状はないことが多く気づきにくいものですが、前癌病変といわれ、数%が癌化すると報告されています。早期の診断、治療が必要です。



<口腔がん>

口の中にできる悪性腫瘍の中で最も多いのは扁平上皮癌というタイプです。表面がカリフラワー様に増殖し、周囲粘膜が硬くなり、疼痛や出血を伴うことが多く、初期の段階であれば、症状に気が付きにくいこともありますので、何か異常があれば早めの受診をお勧めします。口腔がんが疑わしい場合は当院が連携している九州医療センターや大学病院などの高度医療機関へご紹介させていただきます。

